

金沢市立四十万小学校

学級数：19 児童数：436人

【テーマ】

がん患者との関わりや自他の健康と命の大切さについて考える

1 はじめに

がんは、国民の死亡原因1位であり、2人に1人ががんに罹患する時代となっている。学校教育を通して、がんについて基本的な知識を身につけ、がんという病気を通して命の尊さや自己の生き方について考えることは、健康に関する基礎的素養として必要であると考える。今後、自分自身や身近な人ががんを診断されることが起きてくる。がんについて正しい理解を深めることで、がん患者やその家族に対する見方や考え方が変化し、これからの社会の中で活躍できる実践力を育てていきたい。

2 実践

(1) 教科横断的な視点で捉えた単元構成

まずは、体育科（保健領域）において病気についての知識を学んだ。生活習慣病や感染症を取り上げ、健康によくない生活行動とはどのようなものかを具体的に示し、その後、自分の生活行動を見直すことで、予防策を考えさせていった。しかし、どんなに予防していても病気にかかってしまう時はある。そこで、実際に病気と診断されたら、もしくは身近な人が病気にかかってしまったらどんなことができるかを自分事として捉えるため、道徳の授業として、どんな考えや思いをもてばよいのか考えた。

事前アンケートでは、「がんは誰もがかかる可能性のある病気である。」と答えているが、「自分はがんにならないと思う。」と答えた児童も一定数いた。そのためにも、自分た

ちと同じ年代の「小児がん」という病気について考えることは、イメージが持ちやすかったように感じた。

(2) がん経験者とのT・Tによる授業



外部講師として、小児がん経験者であり、現在、石川県がん安心生活サポートハウス「はなうめ」でサポートスタッフとして所属されている20代男性を招いた。

児童は、前時までに病気の予防について学んできた。本時の導入場面で、「小児がん」を取り上げ、「小児がん」は予防できないことと、石川県に多くの小児がん患者がいることを知ると、驚いた様子の児童もみられた。そこで本時の課題、〈身近な人ががんになったらどう接すればよいか〉を提示し、講師と担任との対談形式で授業を展開していった。対談では、主に①がんとわかった時のこと②病院でのこと③現在大切にしていることを中心に話していただきながら、その時々担任や児童からの質問に答えていただいた。対談後、〈クラスに「がん」

の友達がいたら何ができるか>をグループで話し合い、交流し、最後に本時の学習の振り返りを行った。話し合いの場面では、児童から講師の方に「〇〇されたら嫌ですか。」と聞きに行く場面も見られた。事前打ち合わせの際に、「はなうめ」の方も交え、教師が児童に考えてもらいたいことと、がん経験者の方が伝えたい思いをすりあわせていたので、授業でのゴールの姿を共通理解し、進めることができた。

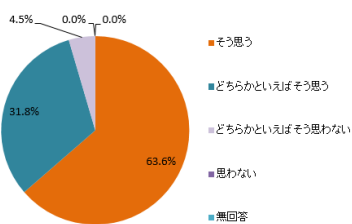
(3) 生徒の感想

- もし、クラスにがんの友達がいても、特別に優しくするのではなく、みんなと同じように接すればよいと思いました。
- がんのことを忘れるくらい楽しく過ごせるようにしてあげたい。
- 辛い経験をしたことを人前で話すことは大変なことだと思う。でもそのおかげで自分たちはそのことについて知ることができたので心にとっても残った。
- これから生きていく中で、いろいろな病気や障害をもった人と出会うと思うので、病気や障害の人がいたら、一緒に付き添ってあげたり声をかけて優しく接してあげたりしたいと思いました。

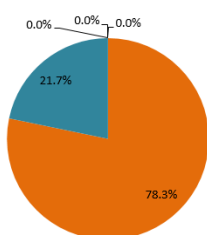
3 生徒アンケートの結果

①日頃から、バランスの良い食事や適度に運動を行うなど健康な体づくりに取り組もうと思う

【実施前】

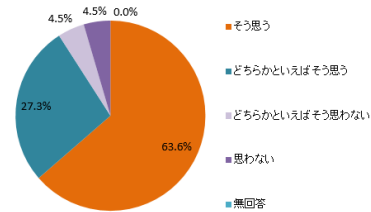


【実施後】

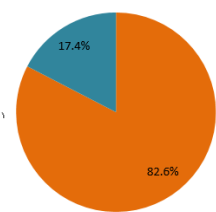


②がんになっている人も過ごしやすい世の中にしたい

【実施前】



【実施後】



授業前には重要性を感じていなかった児童もいたが、授業後には全員が健康な体づくりを行おうと感じるとともに、がんになっている人も過ごしやすい世の中にしたいと思うことができた。この結果から、今回の授業は、自分の健康やがん患者について関心をもつきっかけになったのではないかと考える。

4 実践の成果と課題

〇〇成果〇〇

- 児童と同じ年代にがんという大きな病気を経験した方の話を聴くことで、児童は自分事としてがんという病気について考えることができた。
- 児童にとってがん患者だけでなく、他の病気の人や障害がある人など、普段の生活の中で様々な人に思いやりをもって接することが大切だと感じられ、人との関わり方について考えを広げることができた。

◆◆課題◆◆

- 児童にとってがん患者の方に直接、経験談を聞くことはとても心に残る時間となった。今後も継続していくために、教育課程を見直し、年間指導計画の中にこのような取り組みを計画的に入れていく必要がある。
- 講師との事前打ち合わせの時間を充分にとり、児童に伝えたいことを共通理解して進めていく必要がある。